

寺報

発行 福島市田沢字寺前18

長秀院・仲興寺

TEL 024(548)1240

FAX 024(573)1202

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



曹洞宗福島宗務所資料より 写真：大本山總持寺 大祖堂

太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌

たいそ けいざん じょうきん ぜんじ

令和六年(三〇二四年)奉修
令和五年十一月七日
福島県予修法要厳修

福島県予修法要厳修

令和五年十一月七日、福島市飯坂町パルセ飯坂において、福島県宗務所主催の瑩山禪師様七百回大遠忌予修法要が厳修されました。

「大遠忌」とは、百年二百年という年忌法要をあらわすことばですが、来年令和六年が瑩山禪師様の七百回忌にあたります。宗内においては、前年に「予修法要」として全国を巡って大法要が行なわれています。

今回福島県予修法要には福島県全四七〇ヶ寺の曹洞宗寺院それぞれの住職・寺院並びに檀信徒代表が参列されました。長秀院は丹治正弘氏、仲興寺は丹治誠市氏が代表として住職とともに法要と研修に参加されました。

来年はいよいよ瑩山禪師様の七百回大遠忌を迎えます。



雲水日記 その十一

渡辺 秀憲

関東の十一月は夏日から始まり、秋らしからぬ暖かさが続いております。皆さん如何お過ごしでしょうか。

前回までは修行僧が初めて任される「鐘酒」のお話でした。今回は永平寺で毎年四月の末に修行される「報恩授戒会」についてです。

「授戒」とは「戒を授かる」。「戒」とは仏教徒として生きる上での実践規範であり、これを僧侶から授かることで、お釈迦様の教えを守って生きるというお誓いを立て、仏弟子の一員となります。永平寺では全国から集まった戒弟と呼ばれる参加者の方々が、永平寺のご住職である禅師様より戒を授かるのです。

仏様の教えは師匠から弟子へと伝えら

れてきました。仏弟子としての生き方である戒を授かるということは、戒を授けてくださる方のお弟子になることを意味します。永平寺の授戒会に戒弟として参加するということは、永平寺のご住職のお弟子になることと同義です。すべての儀式を終えたとき、戒弟には「血脈」が授けられます。血脈には、お釈迦様より教えをつないできた歴代の祖師様方のお名前と、その最後に自分の名前が書かれています。お釈迦様より脈々と伝えられてきた教えが、確かに自分に伝えられたことの象徴なのです。

授戒会の日程は四月二十三日～二十九日の七日間。その間、戒弟さんたちは泊りがけで法要に参列し、授戒とは何たる

かという教えを受ける「説戒」などの修行を経て、最終日の授戒の儀式に臨みます。その間、永平寺では全山で戒弟さんをサポートすることになります。

当時「鐘酒」のお役目を頂いていた私たち新米修行僧たちは、普段の勤めに加えて、戒弟さんたちのお食事のお世話もします。修行道場の正式な作法に準じて、一人一人に丁寧にお食事を給仕するので、修行僧にするのとはまた違う、いわば「お客様」への給仕。指導役の先輩修行僧の眼も厳しく、新米たちの背筋も自然と伸び親切的接客とお給仕に努めます。最終日、一年目の修行僧は例外なく、戒弟さんたちとともに授戒会の儀式に参加します。自分が永平寺にて修行したことのひとつの証として、修行僧たちは血脈を授かります。自分の仏弟子たる証として、一生大事に持ち続けるのです。

佛祖正傳
血脈
菩薩大戒

令和五年度 梅花流福島県奉詠大会

令和五年十月二十六日 於郡山市 ユラックス熱海

令和五年度の梅花流福島県奉詠大会が

令和五年十月二十六日、郡山市「ユラックス熱海」において、開催されました。

長秀院講・仲興寺講ともにそれぞれ丹治敏子さん、丹治みきさん、高橋昭子さん、斎藤つやさん、阿久津マサ子さんが代表登壇奉詠を行いました。また、坪池サチさんが賛助されました。両講の皆さんは、コロナ禍で練習もままなりませんでしたが、立派に登壇奉詠をつとめて頂きました。

コロナ禍、講員の高齢化で少人数の参加でありましたが、大会を円成することができました。お釈迦さまのみ教え、道元禅師さまのみ教え、瑩山禅師さまのみ教えを、節をつけてお唱えするのが梅花流です。コロナ禍を越えて参加頂き有難うございました。



長秀院講



仲興寺講

長秀院新駐車場工事中

長秀院の寺前の休耕田を所有者の方より取得（令和四年十二月）、ただし田沢は第二種農推地域のため農業委員会への「農地転用」の申請を行い、駐車場とすることで認可を受け、本年十月より駐車場への工事を開始しています。

田んぼであったので、土を入れ換え、水の問題がないよう暗渠工事を行い、荒目石と砂利を敷きつめ、十一月中には完工の予定です。

寺前に駐車場をつくるのが念願でしたがようやくそのことが実現となりました。これまで「お寺の前をきれいにしておきたい」と草刈除草を多くの皆様のお力でつとめて頂いておりましたが、その積み重ねと本尊様方やご先祖様が力を合せて実現させてくださったものと感謝しております。



砂を敷きつめ、いよいよ完成間近の状態
(11月9日現在)

お陰様で、境内美化という面でもたいへん有意義なこととなり、後世へ継ぐ大きな工事となったといえます。また今後参拝者の皆様も利便性が増大することと思えます。

仲興寺震災塀工事 無縁合祀塔工事 歴住墓地工事 始まる

昨年三月の震度六の地震で被害を受けた外塀・東壇墓地の無縁合祀塔、歴住墓所の工事が始まりました。

東日本震災以降、三度の震度六を受けました。
工事は年内にて終了する予定です。



お地藏様が、「ありがとう」といつておられます



長秀院



仲興寺

それぞれに皆様がお仕度をしていただきました。お地藏様が「ありがとう」と言っておられます。それぞれご寄進ありがとうございます。